

2 アカヒゲ【赤鬚】(スズメ目ヒタキ科ツグミ亜科)

指定 昭和 45 年 1 月 23 日 国指定天然記念物(動物)
所在地 男女群島・南西諸島
管理者 所在市町

日本列島のうちでも南西諸島にだけしかみられないという特産種は、1980 年に発見されたヤンバルクイナのほか、アマミヤマシギ・リュウキュウカラスバト(絶滅)ミヤコショウピン(絶滅)・ノグチゲラ・ルリカケス、そしてアカヒゲの 6 種である。アカヒゲは、西九州沖の男女群島にも生息することが確認された。生息密度はよく調査されていないが、男女群島や南西諸島北部の種子島・屋久島では少なく、奄美大島では多い。徳之島にはある程度生息している。南西諸島中部の沖縄本島の北部や慶良間島には比較的多いが、南西諸島南部の先島諸島ではほとんど見られなくなり、絶滅の恐れがある。

アカヒゲは、日本列島特産種のコマドリとごく近縁である。体重約 20 g^ラ。雄は、上面濃暗赤色で、額、眼先、頬、喉、胸は黒色、以下の下面は白く、脇に黒斑がある。雌は、上面赤褐色で、下面は黒色を欠き、灰ねずみ色と白との斑で、腹の中央は白。溪谷の叢中の地上や、低い枝間で両足をそろえて餌をあさる。

ピッ、ピルルルルと高らかな美声で鳴く。崖の窪みや樹洞に粗雑な巣を作り、4 月中旬から 6 月頃までに、ふつう 4 個の卵を産む。卵は、赤味を帯びたクリーム色の地に、淡赤褐色の不明瞭な斑点が散在するものが多い。昆虫、クモ類などを主食とする。